

平成24年度

事業報告書

公益財団法人

日本高等学校野球連盟

I. 事業の状況

1. 高等学校野球の普及、振興、指導及び監督

- (1) 年度内に評議員会を2回、理事会を7回、それぞれ開催して案件の審議、決定を行いました。また毎月定例として業務運営委員会を開催（12月を除く）して当面の諸案件について協議、連盟運営の円滑化を図りました。
- (2) 年度内に各種委員会（総務、審判規則、財務、選手権大会運営、選抜大会運営、軟式部、技術・振興、プロアマ健全化、連盟70年史編修）を必要に応じて随時開催し、諸問題の検討を行い、高等学校野球の健全な育成、発達に努めました。また、審議委員会を開催し（全体委員会を年6回、小委員会を週1回）、不祥事件に対する指導を行うとともに、不祥事件発生防止の重点目標を3項目（指導者の部内暴力、部員のいじめ行為の絶滅、インターネットや携帯電話のメールによる迷惑行為の防止）を挙げて、諸会議や通達で指導徹底を行いました。
- (3) 年度内に各都道府県高等学校野球連盟会長会議を1回、同理事長会議を2回それぞれ開催し、加盟団体との連絡と諸問題の伝達、徹底を計りました。
- (4) 本年度も『大会参加者資格規定』を定め、各都道府県連盟に通達し、加盟校への指導を要請しました。
- (5) 各種表彰（日本学生野球協会優秀選手表彰、育成功労賞、役員永年功労者表彰）を行いました。
- (6) 高等学校野球の普及、振興のため、部員不足による連合チームの大会参加を認めることとしました。

2. 高等学校野球大会その他の試合の開催及び協力

(1) 第84回選抜高等学校野球大会

毎日新聞社と共催で平成24年3月21日(水)から4月4日(水)までの15日間(3日順延)、阪神甲子園球場で開催、平成24年1月27日(金)に開かれた選考委員会で選考された32校が参加し無事盛況のうちに終了し、大阪桐蔭高等学校(大阪)が初優勝を果たしました。準優勝は光星学院高等学校(青森)。

(2) 第94回全国高等学校野球選手権大会

朝日新聞社と共催で平成24年8月8日(水)から23日(木)までの16日間(1日順延)、阪神甲子園球場で49校が出場して開催。大阪桐蔭高等学校(大阪)が4年ぶり3回目、史上7校目の春夏連続優勝を果たしました。準優勝は光星学院高等学校(青森)。

(3) 第57回全国高等学校軟式野球選手権大会

全日本軟式野球連盟、朝日新聞社、毎日新聞社の後援を得て、平成24年8月25日(土)から29日(水)までの5日間、兵庫県の明石トーカロ球場と高砂市野球場の2球場で開催しました。参加校は全国16地区から各1校ずつ計16校。中京

高等学校（東海・岐阜）が2年連続6回目の優勝を果たしました。準優勝は文徳高等学校（南部九州・熊本）。

(4) 第67回国民体育大会・高等学校野球競技

岐阜県で平成24年9月30日(日)から10月3日(水)までの4日間開催。

硬式の部は、岐阜市・長良川球場と大野町・大野レインボースタジアムの2球場で12校が参加。雨天による日程変更のため、決勝戦を行わず、仙台育英学園高等学校(宮城)と大阪桐蔭高等学校(大阪)の両校が1位校。

軟式の部は、多治見市・多治見市営球場で10校が参加。大津・大津緑洋高等学校(山口)が初優勝を果たしました。準優勝は作新学院高等学校(栃木)。

(5) 春季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の全国9地区で4月下旬から6月上旬にかけて開催しました。

(6) 秋季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道、東北、関東、東京、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の全国10地区で10月上旬から11月上旬にかけて開催しました。

(7) 第43回明治神宮野球大会・高等学校の部

平成24年11月10日(土)から14日(水)までの5日間、明治神宮野球場で開催。高等学校の部は、秋季地区大会の優勝校10校が参加し、仙台育英学園高等学校(宮城)が初優勝を達成しました。

3. 高等学校野球に関する調査及び研究

(1) 平成24年度特待生制度採用について調査を行いました。採用予定校は473校、採用校は446校、採用人数は1,923人。

(2) 平成24年5月末現在の硬式、軟式それぞれの加盟校数、部員数調査を今年も実施しました。集計結果は硬式が168,144人(1,219人増)で3年ぶりの増加、軟式が10,797人(186人減)で3年連続の減少。また、加盟校数は硬式が昨年から19校減の4,071校、軟式が2校減の475校。

4. 高等学校野球選手、部員等のスポーツ外傷予防及び健康増進

(1) 年度内に開催の第84回選抜大会と第94回選手権大会に参加した投手全員を対象に、大会前に肩、肘の関節機能検査を実施、スポーツ障害の予防に努めました。検査結果の概要は次の通り。

	(84回選抜)	(94回選手権)
検査受診者数	102人	132人
	肩・肘	肩・肘
X線所見・肘(剥離骨折)	なし 12人	なし 27人
同・肘(遊離体)	なし なし	なし 4人

医師の診断	軽度の炎症	肩・肘		肩・肘	
		10人	10人	28人	20人
	中程度の炎症	なし	なし	1人	6人
	重い炎症	なし	なし	なし	なし

以上の結果、大会規定による投球禁止適用者はいなかった。

5. 高等学校野球に関する講習会・研修会の開催

(1) 審判講習会

第52回全国審判講習会を平成24年4月21日(土)、22日(日)の両日開催。実技は阪神甲子園球場、座学は兵庫県立総合体育館で実施。各都道府県から参加した受講者を対象にルール研修や実技指導を行いました。

また、北海道をはじめ9地区の地区別審判講習会に講師を派遣、地方審判の技術向上に努めました。

さらに都道府県連盟審判との連携強化、審判技術の向上と正しい指導方法の習得を目的とした第2回「高校野球 Umpire Coaching Clinic」を平成25年2月17日(金)から19日(日)までの3日間、前年の選抜大会ならびに選手権大会に審判委員を派遣した都道府県連盟からの推薦者を対象に実技及び座学研修を行った。

その他に、中学・少年野球育成事業の一環として、第14回目の少年野球合同審判講習会を平成25年2月2日(土)、3日(日)に開催、受講者45人を対象に審判技術の統一と向上を図りました。

(2) 新任理事長研修会

平成23年度ならびに平成24年度新たに就任した都道府県連盟理事長14人を対象に、平成24年5月28日(月)、29日(火)の2日間、中沢佐伯記念野球会館で研修会を開催しました。

(3) 指導者研修会

都道府県連盟主催の加盟校指導者研修会に講師を派遣しました。

(4) 指導者育成プログラム「高校野球・甲子園塾」

高校野球のよき指導者となるために、教員在籍10年未満の指導者を対象に平成24年11月23日(金)から25日(日)まで3日間および12月14日(金)から16日(日)まで3日間の2回開催。各回27名が参加して、近府県の加盟校の協力を得て、グラウンドでの実技研修ならびに中沢佐伯記念野球会館での座学研修を行いました。

(5) プロ野球現役選手によるシンポジウム「夢の向こうに」

日本野球機構、日本プロ野球選手会の協力を得て、平成24年12月8日(土)に鳥取県・米子市で加盟校25校、部員250人を対象に開催しました。

(6) 元プロ野球選手による技術指導講習会

日本野球機構、全国野球振興会(日本プロ野球OBクラブ)の協力を得て、平成24年11月から25年2月にかけて、加盟校部員を対象に7県10会場で開催しました。

6. 高等学校野球を通じた国際交流及び国際相互理解の推進

年度内に次の国際大会に参加し、野球を通じて国際交流及び国際相互理解の実を挙げました。

(1) 第25回IBAF18U世界野球選手権

平成24年8月28日(火)から9月9日(日)まで13日間、高校日本代表チームを韓国に派遣しました。参加は12か国・地域。

◇最終順位

第1位 米国、第2位 カナダ、第3位 中華台北
第4位 コロンビア、第5位 韓国、第6位 日本

7. 高等学校野球に関する関係諸団体との協力及び提携

(1) アマチュア連絡会

日本野球連盟、日本学生野球協会、全日本大学野球連盟と定期的に連絡会を開催。また、全日本アマチュア野球連盟から全日本野球協会への組織変更に伴う協議にも参画しました。

(2) 学生野球資格回復に関する協議会

日本学生野球協会と日本野球機構ならびに日本プロ野球選手会が元プロ野球選手の学生野球資格回復について検討する学生野球資格回復に関する協議会に参画しました。

8. その他この法人の目的の達成に必要な事項

(1) 連盟の財政健全化への取り組み

近年、連盟の財政健全化を鋭意続けてきたが、公益財団法人としての安定的かつ継続的な運営を続けるために更なる健全化を推し進めるべく、健全化施策(海外交流事業の凍結、選抜・選手権大会の収支改善、加盟金額の値上げなど)を進めていくこととしました。

以 上